

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：ソロンガ

氏名のローマ字表記：Solongga

所属：千葉大学大学院人文科学研究院

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：乳用ラクダの飼育形態と搾乳に関する考察—ラクダ合作社を経営する牧畜民の事例から

発表要旨（600字～800字程度）：

近年、ラクダの産業化が進んでいくことにつれ、内モンゴル自治区アラシャー盟の多くの地域ではラクダの合作社と乳用ラクダ飼育の特定牧戸が増加してきた。これによって、牧畜民は以前の放し飼い式のラクダの放牧を捨て、畜舎内にラクダを囲んで飼育する新しい飼育方法を始めた。新しい飼育方法の最終の目的は乳用ラクダを飼育し、乳を得るためである。そして、牧畜民は乳製品をつくる企業までラクダの乳を集中的に送ることで現金を得ている。これは現在の牧畜民にとって新たな生き方になっている。

本発表の目的は、中国内モンゴル自治区アラシャー盟アラシャー右旗におけるラクダ牧畜民を対象とし、ラクダの産業化が進んでいる現在における彼らのもつ飼育方法およびそれに応じたラクダの搾乳方法を明らかにすることである。具体的には以下の7点を明らかにする。①ラクダ牧畜民はいつから合作社を経営し、乳用ラクダの飼育をはじめたのか、その飼育方法を明らかにする。②乳用ラクダを飼育するための畜舎、餌場、休息場、搾乳場を詳細に紹介する。③乳用ラクダの餌を紹介する。④ラクダの日常の健康状態と管理を明らかにする。⑤手搾りとミルクカーという搾乳方法およびその仕組みを明らかにする。⑥一日の乳搾りの流れを記述する。⑦乳を販売する流通、その価格と量を明らかにする。その成果を踏まえ、乳用ラクダの飼育と搾乳という2つの側面からラクダの産業化による牧畜民の新たな生き方を考察する。